

V 調査結果のまとめ

学力状況調査の結果からは、亀岡市全体としては、小6、中3ともすべての教科において全国の平均正答率を下回っている。昨年度に比べ、小6国語で全国の平均正答率を上回った学校数は増えているなど、各校における授業改善の取組の成果は見え始めているものの、今後も、各校において本調査に基づいた成果と課題の分析をすすめ、授業改善に取り組み、さらなる学力の向上に努める必要がある。

また、各教科における成果・課題も明確になってきている。成果としては、小学校の国語における「A話すこと・聞くこと」(思考力・判断力・表現力等)、中学校の数学における「データの活用」である。課題としては、小学校では、特に国語における「C読むこと」(思考力・判断力・表現力等)、算数における「C変化と関係」、理科における「『生命』を柱とする領域」「『地球』を柱とする領域」、中学校では、特に国語における「C読むこと」(思考力・判断力・表現力等)、数学における「A数と式」「B図形」、理科における「『エネルギー』を柱とする領域」「『生命』を柱とする領域」である。各校において言語活動を基盤とした協働的な学びを柱に据え、積極的なICT活用を進めながら、新学習指導要領で示されている「主体的・対話的で深い学び」を目指した一層の授業改善が求められる。

学習状況調査では、小学校での「自分にはよいところがある」項目については、肯定的な回答が全国の平均値を上回っているが、それ以外の項目では、小学校・中学校・義務教育学校において、自己肯定感・人権認識・規範意識・将来を展望する力等の非認知能力(数値で測りにくいとされる能力)で、肯定的な回答が全国の平均値と同じか下回っている。非認知能力の高まりが、認知能力(テスト等の数値で測る能力)の向上につながるという研究結果もあることから、今後も、認知能力と非認知能力を一体的に育むことが重要である。

また、PC・タブレットなどのICT機器を使用している学習の効果についての認識や、ICT機器を活用している学習時間は全国値を上回っており、今後も積極的なICT機器の活用を推進しながら主体的な学びにつながる働きかけが重要と考えられる。

義務教育9年間の中で、すべての教育活動において自分の特性や長所等、自分自身を振り返る機会を設け、キャリア形成の観点から将来への見通しを持ち主体的に進路選択ができる力を身に付けさせることが求められる。

VI 学力の定着・向上へ向けての亀岡市の取組

(1)各学校での取組

各学校では、全国学力・学習状況調査等の結果を分析し、学力保障・学力向上に向け以下のような取組を進めている。

ア 組織的な研究の推進

- 学校長のリーダーシップのもと、組織的な研究体制を構築し、学力分析に基づいたPDCAサイクルの確立による校内研修会を充実させる。
- 外部講師を招聘した公開授業研究、校内研修会など、指導改善への積極的な研究を展開する。
- 探究的な学びを通して、児童生徒が主体的に課題と向き合い、自らの考えを持ち伝え合うことで学びの意欲を高め、学習の深まりを求める「考え合う授業」の実践についての研究を推進する。
- 探究的な学びを展開するためのICT機器活用についての教職員研修会を充実させる。
- 小中一貫・小中連携を通して、各中学校ブロック内の教職員の協働による授業研究や乗り入れ授業などを推進する。

- 基礎基本の定着の徹底を図るための個別型補充学習における個別指導計画の活用や複数指導体制などを充実させる。
- 「家庭学習の手引き」等、自ら学ぶ力を育成するために小中連携を通し指導内容の充実を図る。
- 誰もが安心して学べる学級経営の推進のため、生徒指導及び特別支援教育の視点からの研修の充実を図る。

イ 「確かな学力」を育むための「考え合う授業」の取組

- 基礎・基本の定着、活用する力及び学びに向かう力の育成、既習事項や経験や日常生活との関連付けを活かす指導の工夫、自主的・自発的な学習につながる学習課題や学習方法等の工夫を通じた「知識・技能」を習得するための教育活動を充実させる。
- 論理的に思考し表現したり、自他の考えを尊重し伝え合えあったりする「ことばの力」の育成や、言語活動の充実による「思考力・判断力・表現力等」を育成する教育活動を推進する。
- 「ふるさと学習」やキャリア教育の推進等を通しての「学びに向かう力・人間性」の涵養に係る教育活動を充実させる。
- 全国学力・学習状況調査等、各種調査の分析・活用、少人数や習熟の程度に応じた指導、個別指導計画の活用等、個に応じた指導を充実させる。
- 探究的な学習における「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の各過程での活用や個別最適な学びなど、積極的にICTを活用した学習支援を推進する。
- 「家庭学習の手引き」等で、小中連携した指導と内容の充実による家庭学習の定着を図る。
- 互いの人権尊重を土台として、生徒指導の3つの機能やユニバーサルデザインの視点を活かした学級経営の推進など、誰もが安心して学べる学習基盤を構築する。
- 組織の活性化、職員研修の充実、各中学校ブロック内小中教職員の協働による授業研究の充実を通して指導力を向上させる。

(2) 亀岡市教育委員会の取組

ア 亀岡市「確かな学力育成会議」を組織

- 亀岡市小中学校長会、小学校・中学校教育研究会と連携し、教育委員会と各学校の課題を共有する中で、学力向上対策に係る方針、計画等の検討と発信を行う。

イ 小・中・義務教育学校の学力担当者会議の開催

- 各種調査結果の分析手法、授業改善の手立て、各校の実践等の研究、交流を通して、学力向上対策に係る具体的実践のための研修を行い、各校での実践に生かす。

ウ 学力向上に係るアドバイザーの招聘

- 各種調査の分析を依頼し、その分析を基にした組織的な学力向上対策の推進、授業改善の手立て等に生かす。
- 学力担当者会議においての指導助言を受け、各校における教育活動の活性化を推進する。

エ 小中一貫・小中連携教育の推進

- 中学校ブロックを中心として学力向上に向けての9年間の連続した学び及び授業改善に向けた研修を充実させる。
- 学びの基盤となる人権教育・生徒指導・特別支援教育等、領域における指導計画等の連携を推進する。
- 中学校ブロックにおいて、管理職及びコーディネーターの企画運営による公開授業、研究授業を積極的に推進し、焦点を定めた教科・領域の連携を充実させる。

オ 学力向上拠点校の取組

- 中学校ブロックで実践校を指定し、小中連携を基盤とした、学力向上に係る組織的な取組を推進するとともに、その実践を亀岡市全体に発信する。

カ 亀岡市教育委員会の指導主事による学力向上に係る学校訪問の実施

- 各種調査の分析結果に基づき、学校の取組についてのヒアリングや指導助言を行うことにより、学校支援の充実を図る。
- 小学校中学年(特に4年生)に焦点を当て、指導主事による授業参観を行い、教員のスキルアップを目指しての指導助言を行う。

キ 研修講座の開催

- 京都府南丹教育局と亀岡市教育委員会との共催による授業実践講座を開催し、公開授業に基づく授業研究や先進的な取組の実践交流から学ぶ機会とし、授業力の向上を図る。
- 京都府総合教育センターと亀岡市教育委員会の連携により「小学校算数4年」「小学校国語5年」に焦点化した研修講座(出前講座)を開催し、授業改善、指導力の向上を推進する。

ク 魅力と特色ある学校づくり推進事業の実施

- 実践校の状況に応じ、学力分析及び授業研究を通じた学力向上の取組や学びの基盤づくりの取組など、学校全体で組織的な研究推進を行っている。

ケ Teams の活用による学力向上に向けた教職員のネットワークの構築

- 亀岡市中学校教育研究会の各部会でチームを編成し、指導計画や教材の共有などを通して、ICT教育の推進とともに教育の質の向上を図る。
- 対面での会議とともに、オンライン会議やTeamsの活用を通して、授業改善に向けた指導力の向上を図る。

コ 学力充実 進路保障に向けた取組の推進

- 主に、小学4・5年生を対象にした「学習支援員配置事業」を実施する。
- 中学1・2年生を対象にした「学習支援員配置事業」を実施する。
- 中学3年生を対象にした「地域未来塾」を実施する。